

6. 高篠地域

(1) 高篠地域の概況

- 本地域は市の北東部に位置し、(主)熊谷小川秩父線や(主)長瀬玉淀自然公園線沿道を中心に集落や農地が広がり、周囲を森林に囲まれています。
- 将来都市構造では、田園集落ゾーン、森林・自然ゾーンに位置づけられています。
- 都市計画法をはじめとする、各種法規制の適用状況は以下のとおりです。

【高篠地域の位置】



根拠法	区域指定等
都市計画法	都市計画区域(定峰除く)
景観法	秩父市まちづくり景観計画の田園地域 (都市計画区域外は農山村地域)
農業振興地域の整備に関する法律	適用なし
自然公園法に基づく埼玉県自然公園条例	県立長瀬玉淀自然公園
森林法	保安林

【法規制の状況】

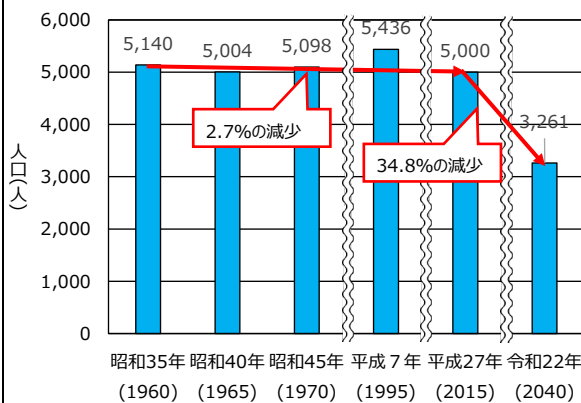


(2) 高篠地域の地域特性

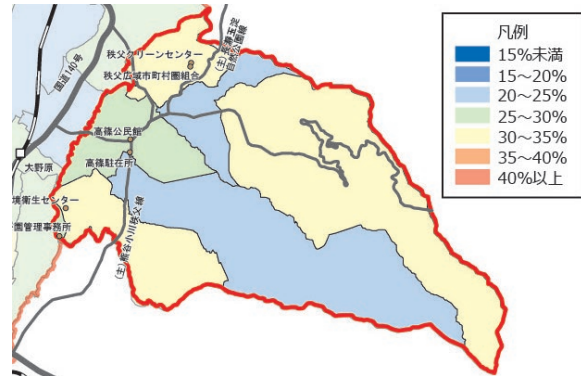
①人口特性

- 人口は、1960(昭和35)年から2015(平成27)年の55年間でみると、ほぼ変化が無く、横ばいで推移してきましたが、今後は減少に転じ、2040(令和22)年には3,300人程度にまで減少すると見込まれています。
- 地区別にみると、栃谷地区で0~10%の減少であるのに対し、定峰地区では減少率が10%を超えています。こうした要因もあって山間部では、高齢化率が30~35%に達しています。
- 定住意向については、「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」とする回答が約7割となっていますが、全市平均よりもやや低くなっています。

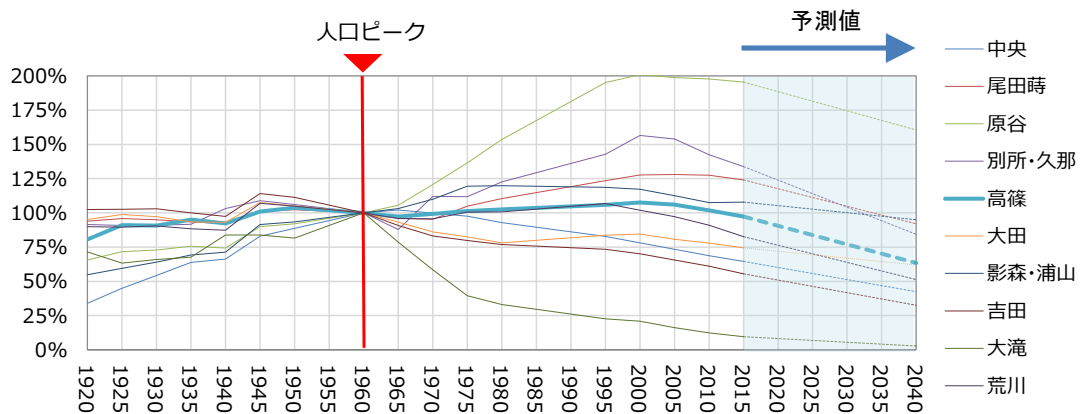
【人口動向(国勢調査)】



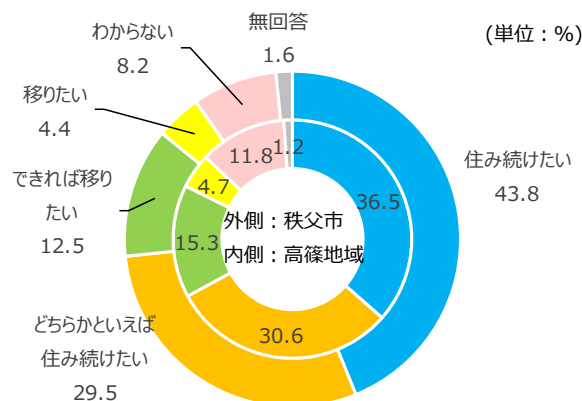
【町丁大字別高齢化率(平成27年・国勢調査)】



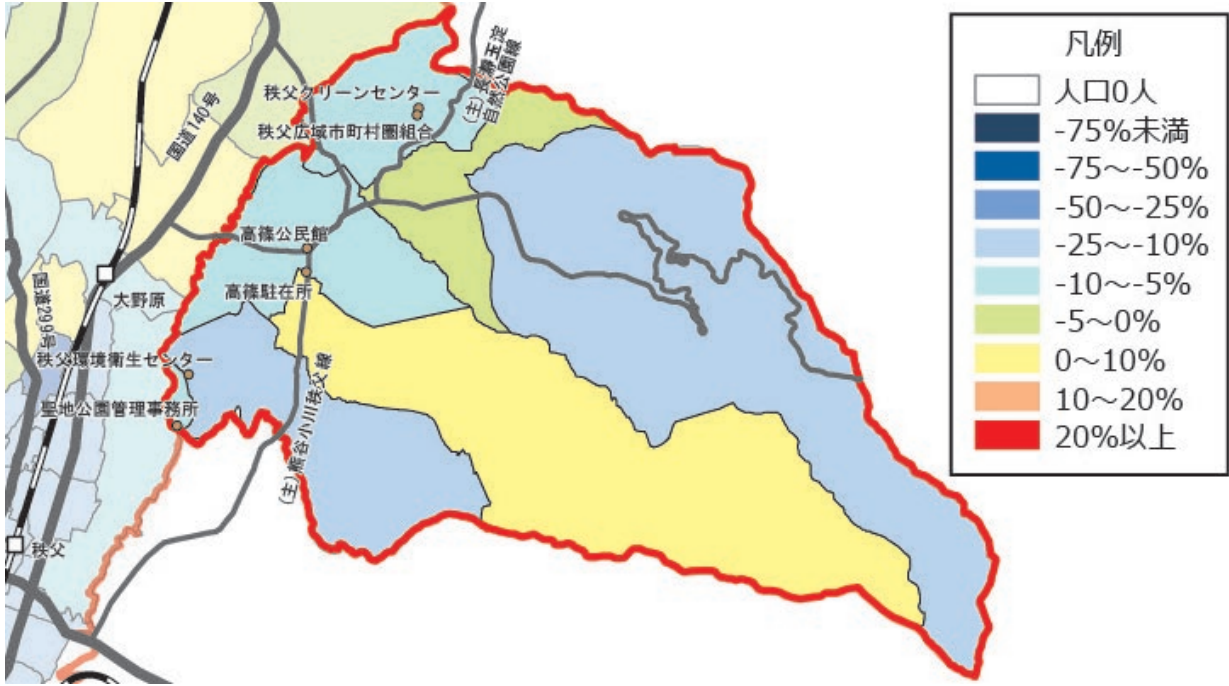
【1960(昭和35)年を100とした場合の人口指数の地域間比較】



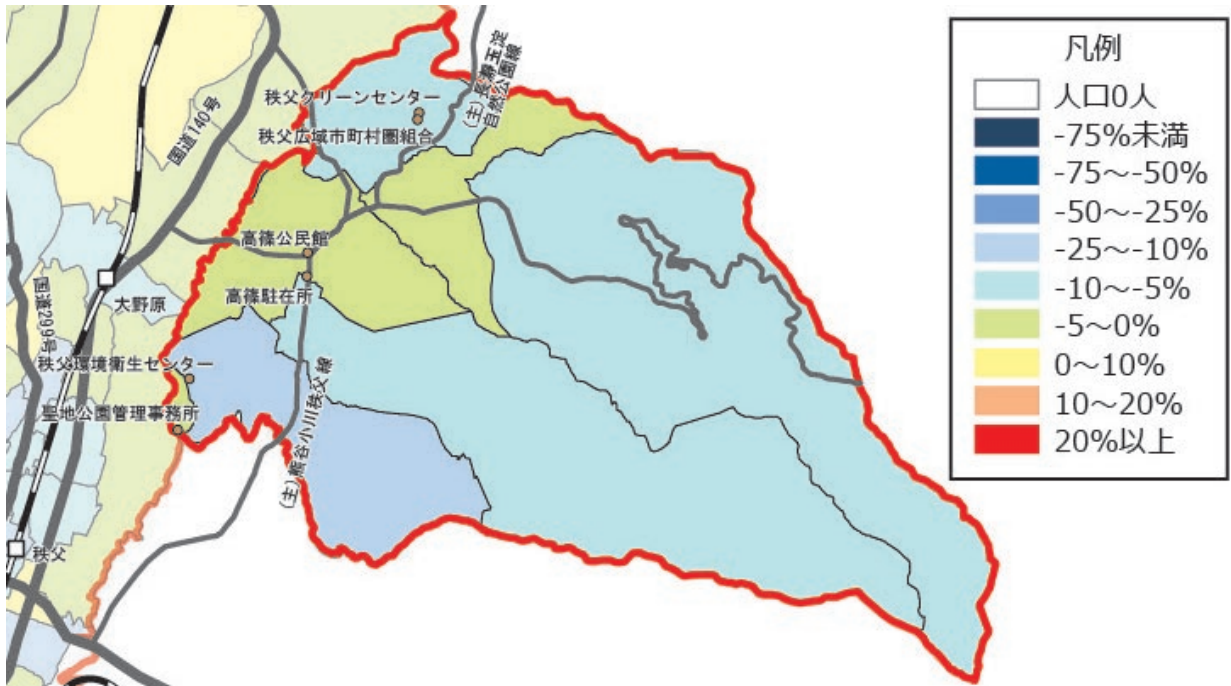
【定住意向(市民アンケート調査)】



【人口増減の動向(2005(平成17)年→2015(平成27)年人口増加率)】



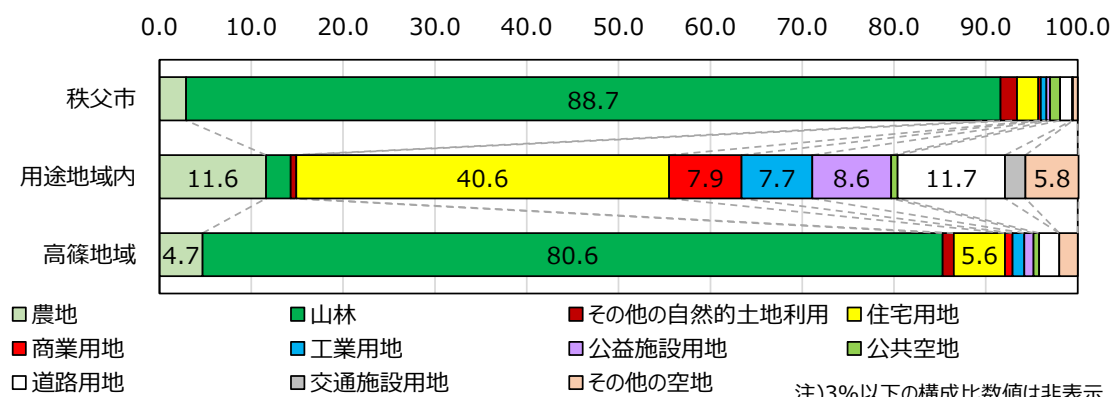
【人口増減の見通し(2015(平成27)年→2040(令和22)年人口増加率)】



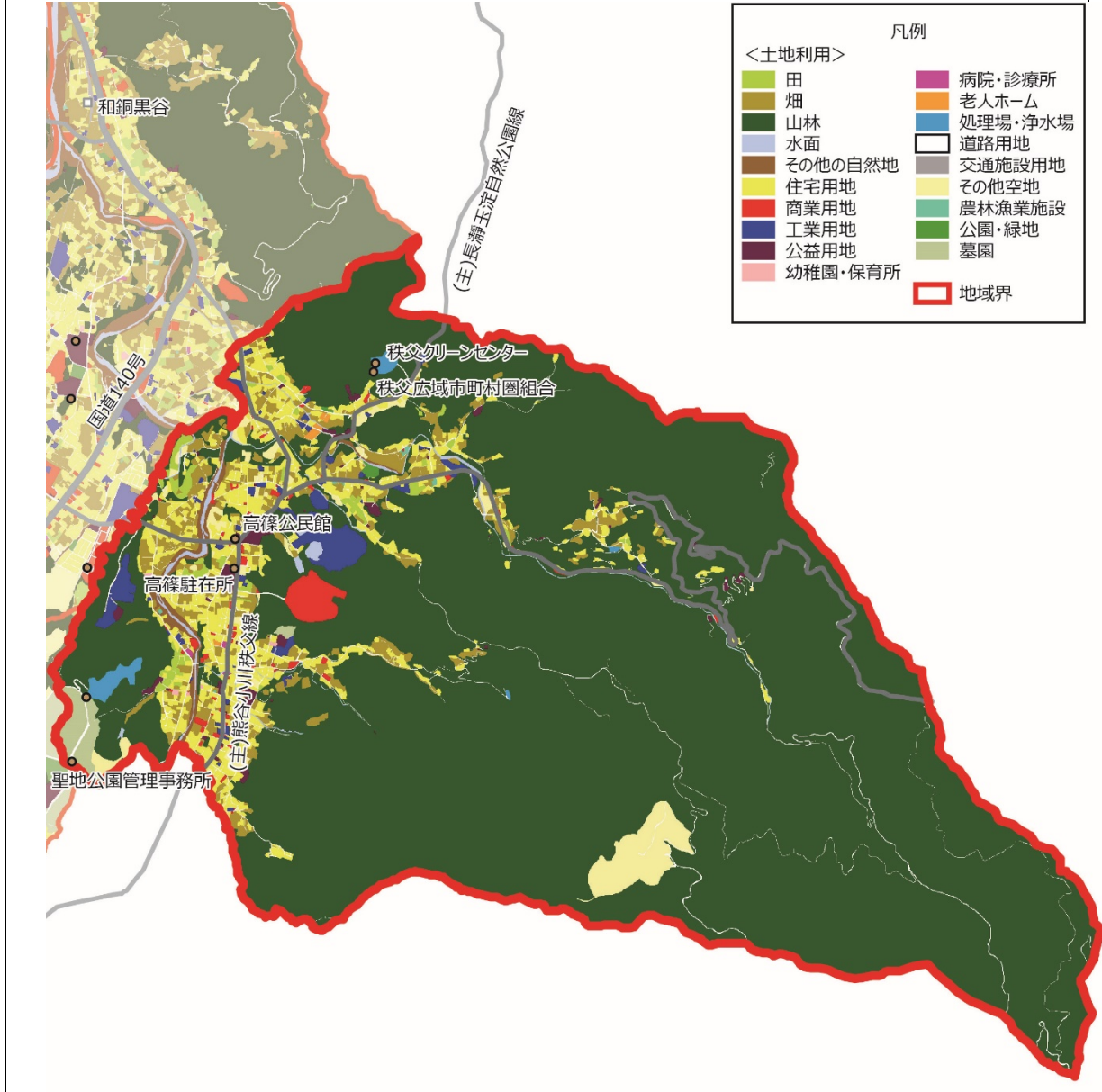
②土地利用・産業基盤・機能

- 土地利用は農地の比率がやや小さいものの、約8割が森林であり、自然的な土地利用が地域の大半を占めています。
- 北東部の山間部は県立長瀬玉淀自然公園に属し、土地利用が制限されるなど、自然環境の保全と活用が図られています。
- 平地部は横瀬川と定峰川に沿って形成され、住宅地を主体とした土地利用が進んでいますが、横瀬川沿岸の崖地や(主)熊谷小川秩父線沿道、札所2番真福寺に至る道路沿道は、土砂災害特別警戒区域などに指定されています。
- かつては、上山田地区を中心に繊維・機械産業が振興し住宅が多数立地していましたが、繊維産業の衰退とともに工場の閉鎖が進み、下山田・栃谷の農地が宅地化され、人口の中心は北側に移動しています。
- 行政・教育などの都市機能は、高篠出張所が立地する下山田地区に集積する一方、地域内にスーパーなどはなく、隣接する原谷地域や横瀬町への移動が必要なため、自家用車が利用できない場合は、商業機能が利用しにくい環境となっています。
- 地域の北端に、秩父広域市町村組合の秩父クリーンセンターが配置されています。
- 定峰地区の(主)熊谷小川秩父線沿道の山あいには点在する集落は、人口減少とともに、集落の機能、コミュニティの維持が困難になりつつあります。
- 下水道については、横瀬川西側の一部において供用が開始されていますが、高篠・黒谷分区においては未着手となっています。
- 定峰地区の市有林については、民間企業とCSR協定を結び植樹活動などを行っています。

【土地利用現況（平成28年・都市計画基礎調査）】



【土地利用現況図（平成28年・都市計画基礎調査）】

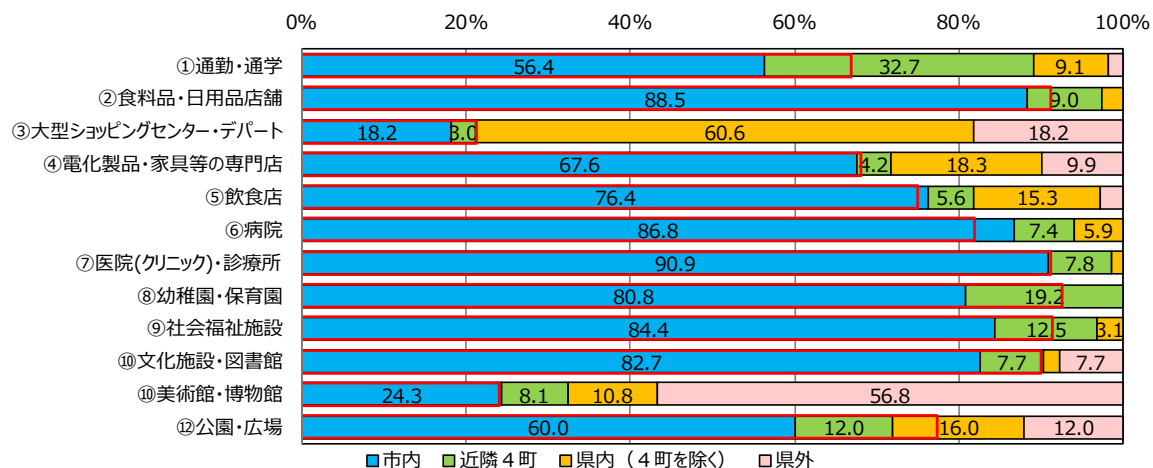


資料：平成28年度都市計画基礎調査（土地利用）

③居住環境特性（市民アンケート調査）

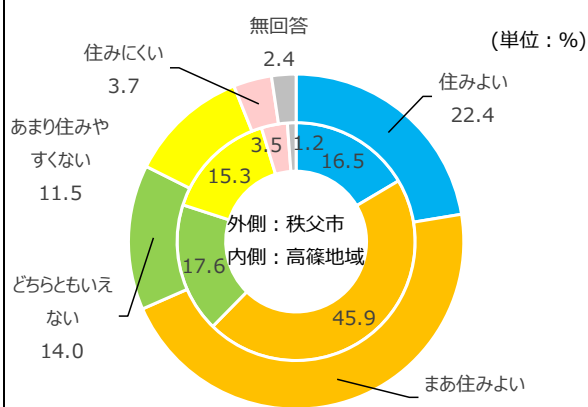
- 日常生活における目的ごとの主な行き先は、飲食店や病院など一部の目的を除き、「市内」とする割合が市全体と比較して低く、「近隣4町」や「県内（市内・近隣4町を除く）」とする割合が高いなど、他の自治体との繋がりが強いことが特徴です。
- 住みやすさは、「住みよい」「まあ住みよい」が約6割で、市全体の平均を下回っており、その理由として、「買い物が不便」「働く場所が少ない」「楽しめる場所（娯楽）が少ない」などが挙げられています。
- 行きやすくしてほしい施設として、「医療施設」や「身近な商業施設」「ショッピングセンターなどの商業施設」が上位となっています。

【日常生活における目的ごとの主な行き先】

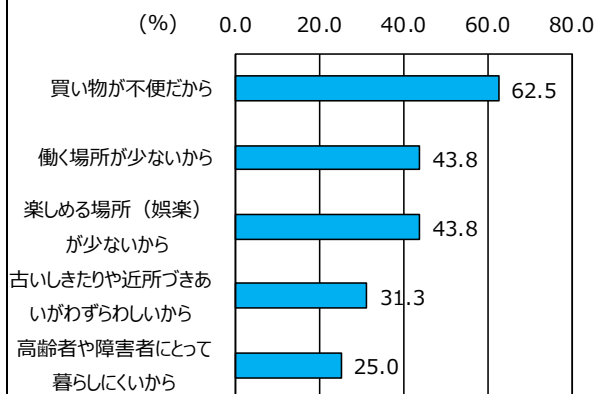


※赤枠表示は市全体の行き先を「市内」と回答した比率

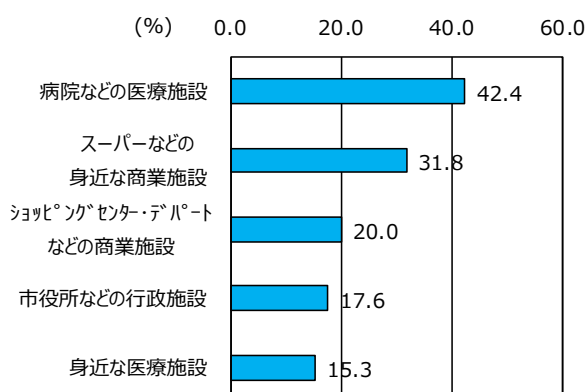
【住みやすさ】



【住みにくい理由】



【特に行きやすくしてほしい施設】



☆住民懇談会でこんな声が寄せられました・・・

<定住や生活環境に関すること>

- ・若者が住みづらい理由は、高い家賃と低い賃金、それと娯楽がないことだと思うが、今は働き方や考え方も多様化しているので、秩父市に魅力を感じて定住してもらう方法を考えるのが良いと思う。
- ・今後も空き家が増える可能性があるので、対策を考えていく必要がある。
- ・人材育成が重要なので、教育に力を入れてはどうか。

<観光や景観に関すること>

- ・街なかを観光客が歩くような仕組みを構築できればよいと思う。
- ・たくさんある資源に焦点を当てたまちづくりが必要ではないか。

<安全・安心に関すること>

- ・土砂災害の恐れがある、道路や水道管が老朽化している地域などの維持には大きなコストがかかるので、他の地域に誘導することが良いと思う。

④ライフステージに対応した施設

<あらゆる世代が利用する施設（共通）>

- 高篠地域は、広く山間部を擁する立地条件にあることから、食料品スーパーなどの商業機能や病院、金融機関などの機能立地は限定的です。
- 診療所は2箇所立地していますが、秩父市立病院などの病院は、地域を越えての利用となっています。

【商業施設等】

高篠地域においては、食料品等日用品を購入するためのスーパーなどがなく、隣接する原谷地域や横瀬町などへ出かけなければなりません。特に山あいの集落地などは、日常的な買物も不便な状況にあります。今後、将来人口が大きく減少することを踏まえると、地域への立地誘導は困難と考えられることから、他地域の商業施設を利用しやすい環境を構築する必要があります。

【医療施設】

金子クリニック、水野医院が地域医療を支えています。隣接する黒谷地区を含む市域北部は医療機関が少なく、病院についても秩父市立病院へ直接アクセス可能なバスルートはないなど、地域医療を今後どのように支えていくかが課題といえます。

【金融機関】

金融機関は、J Aと郵便局がその役割を担っています。事業者に対し広く融資を含む事業支援は、中心市街地に立地する金融機関を利用する必要があります。

【あらゆる世代が利用する施設（共通）】

ライフ ステージ	対象 エリア	種別	具体例	交通手段	地域の課題 (代替え案)
共通	圏域	行政	国や県の機関・本庁		
	地域	行政	高篠出張所		
	地域	医療	金子クリニック 水野医院	バス 自家用車	交通手段の確保
	圏域	医療	秩父市立病院	自家用車	交通手段の確保
	地域	買い物	セブンイレブン 秩父山田店	自家用車	交通手段の確保
	地域	銀行 郵便局	JAちちぶ秩父東支店 秩父高篠郵便局		

<幼年期から学齢期に関わる施設>

- こども園や幼稚園等の子育て支援施設、小中学校が立地し、居住地を徒歩圏でカバーされていますが、山間部からの利用は困難な状況にあります。
- 高等学校、大学は設置されていないため地域外、圏外への通学が必要です。

【保育所・認定こども園等】

民間施設の状況も踏まえながら、子育て環境の維持・向上に向けてサービス水準の維持に取り組むことが望まれます。

【小学校・中学校】

地域内には小学校・中学校が各1校設置されていますが、地区によっては必ずしも通学しやすい環境とはいえません。

これら学校教育施設は、地域コミュニティの核となる施設でもあることから、施設の維持と、通学路の安全性の確保が求められます。

【高校・大学等】

高等学校は、地域の高等学校の魅力向上とともに、秩父圏域内外の高校へも容易に通学できるよう、公共交通による移動の利便維持・向上が望まれます。

大学などでは、圏外へ容易に通学できるよう、公共交通による移動の利便維持・向上が望まれます。

飯能方面の通学には、横瀬駅が多く利用されます。

【幼年期から学齢期に関わる施設】

ライフ ステージ	対象 エリア	種別	具体例	交通手段	地域の課題 (代替案)
幼年期	地域	保育所 こども園等	山田保育園 風の森保育園	徒歩 自家用車	
学齢期	地域	小学校 中学校	高篠小学校 高篠中学校 高篠学童保育室	徒歩	通学手段の維持 通学路の安全性確保
高校	圏域 広域	高校	秩父圏域の高校 熊谷・飯能方面	バス・電車	交通手段の確保 施設の維持
大学 専門	広域	大学 専門	県内・都内	バス・電車	交通手段の確保

＜就労壮年期から老年期に関わる施設＞

- 就労場所は、市内、秩父圏域をはじめ、熊谷・飯能方面や都内となっています。
- デイサービスセンターは、送迎車などで比較的に利用しやすい環境にあります。
- 在宅介護に関わるサービス支援は、山間部などにおいて移動距離が長くなるため、必ずしも効率的とはいえない環境にあります。

【就労場所】

幹線道路の整備等による道路ネットワークの向上、公共交通による移動の利便維持・向上が望まれます。

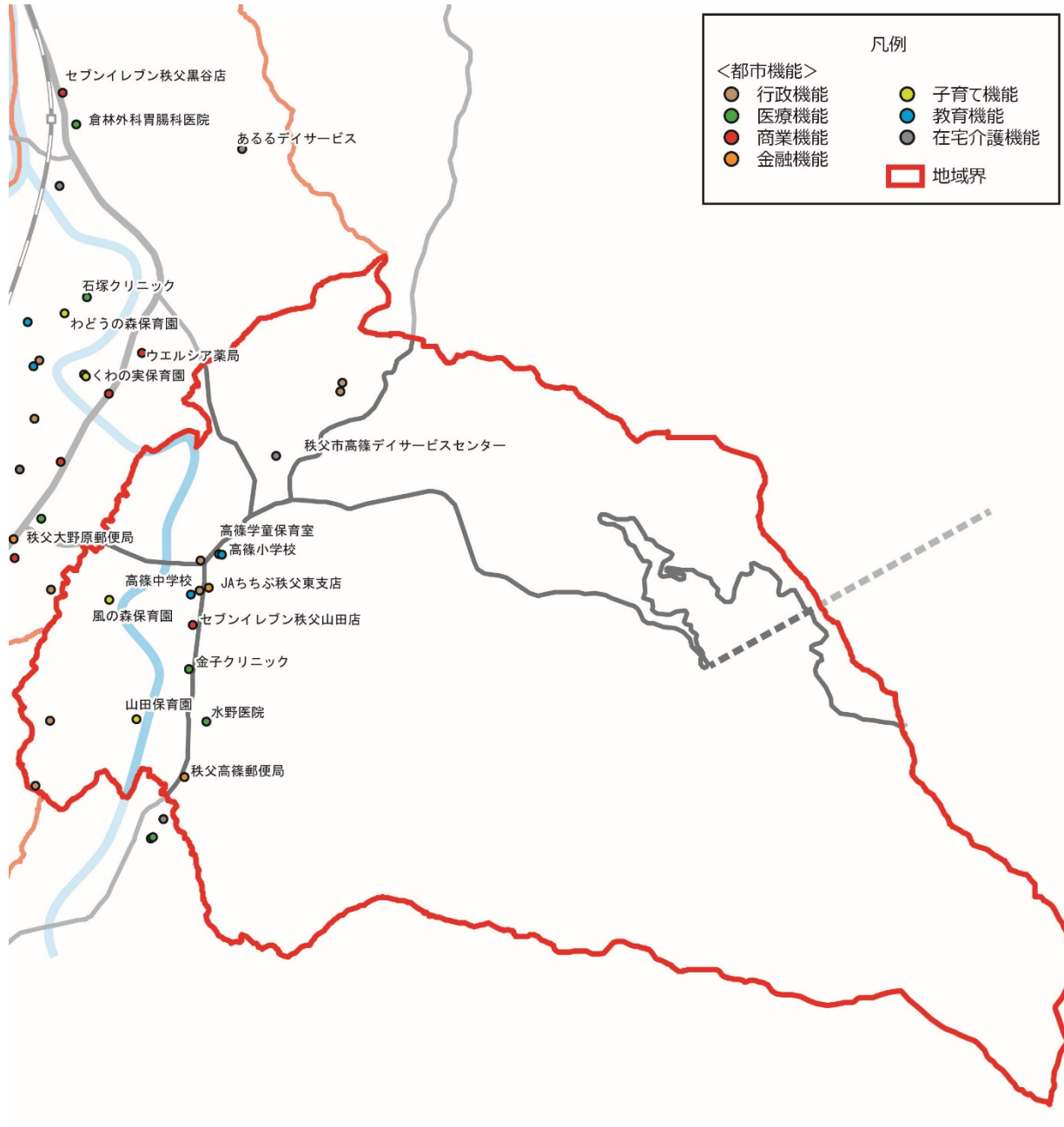
【在宅介護】

福祉・介護計画に基づき、地域の福祉サービスを維持・向上していくことが望まれます。

【老年期に関わる施設】

ライフ ステージ	対象 エリア	種別	具体例	交通手段	地域の課題 (代替案)
就労 壮年期	地域 広域	雇用	市内、秩父圏域 熊谷・飯能方面、都内	自家用車 バス・電車	都内への電車交通 幹線道路等の整備
老年期	地域	在宅 介護	高篠福祉交流センター 高篠デイサービス センター	送迎	

【都市機能の配置状況】

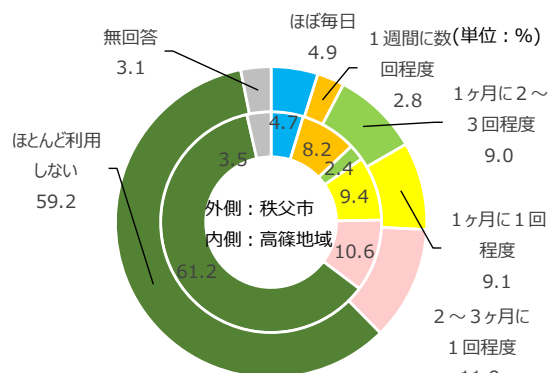


資料：都市計画課

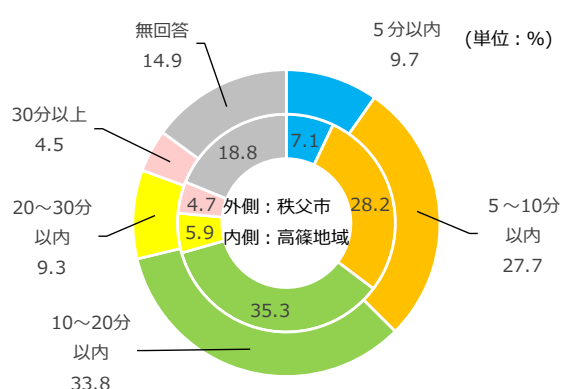
⑤道路、公共交通特性

- 本地域は(主)熊谷小川秩父線及び(主)長瀬玉淀自然公園線が、それぞれ国道140号、国道299号に接続し、市街地と結ばれており、隣接する横瀬町や皆野町にもアクセスしやすい環境にあります。
- (主)熊谷小川秩父線は定峰峠を越える路線であるため、屈曲が多いなど、走行性は必ずしも十分ではなく、定峰トンネル開削促進期成同盟会が結成され関越道へのアクセス向上のための活動が続けられています。
- 公共交通は、路線バス（定峰線）が秩父駅－皆野駅・定峰間で運行されており、運行本数は皆野駅間が6往復／日、定峰間が7往復／日となっています。
- 下山田・栃谷・定峰において、乗合タクシーが利用されています。
- 市民アンケートでは、公共交通の乗り場への所要時間は、10分以内が約4割にとどまっています。こうしたことも要因に、公共交通を「ほとんど利用しない」が6割に達しており、公共交通があまり利用されていない現状がうかがえます。

【公共交通の利用頻度（市民アンケート調査）】



【公共交通への所要時間（市民アンケート調査）】



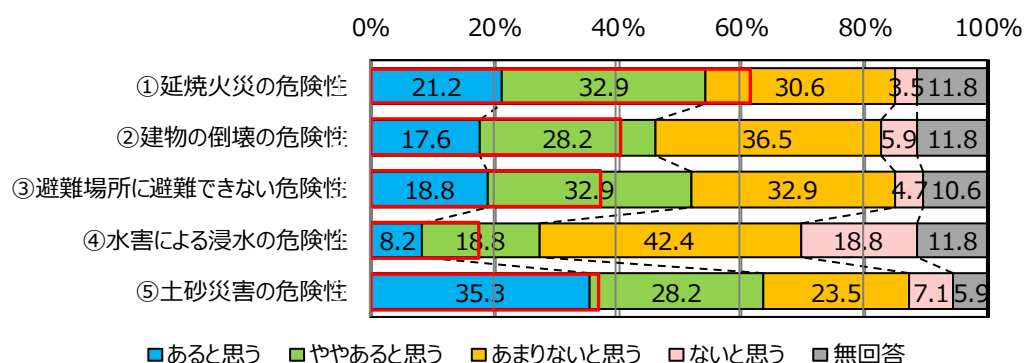
⑥景観、観光、文化特性

- 本地域は、西に向かってなだらかに下る丘陵地形となっており、集落の背後に広がる森林によって構成される里山景観と横瀬川の河川景観が特徴となっています。
- 観光については、(主)熊谷小川秩父線に定峰峠があり、ヒルクライムスポットとしてロードレーサーが多く訪れています。また、古くから知られる高篠鉦泉郷には日帰り入浴可能な宿泊施設が複数あり、観光客に親しまれています。
- 恒持神社の例大祭として毎年3月上旬に催される「山田の春祭り」は、3台の笠鉦・屋台が曳きまわされる秩父地域に春の訪れを告げるお祭りです。また、地域内には秩父札所巡りの札所1番から4番までが分布しています。

⑦防災、地域安全特性

- 土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域が、(主)熊谷小川秩父線沿道や横瀬川沿岸、箕山の西側に集中しています。
- 地域中心部においても、高篠小学校の裏手が土砂災害特別警戒区域となっています。
- 地震については、埼玉県が想定する5つの被害想定のうち、関東平野北西縁断層帯地震(30年以内にほぼ0~0.1%)によって、地域の全域で震度5強の揺れが想定されています。
- 高篠出張所など、従来からの地域の中心部のほか、山あいの集落においても、老朽空き家が分布しており、倒壊や火災への注意が必要です。
- 大規模火災については、地域の住宅密度が低く、大規模延焼の可能性は少ないと考えられます。
- 2019年の台風19号では、下山田矢行地内の住宅が数棟全壊するなどの被害が出たほか、定峰地内の住宅にも土砂が侵入するなど大きな被害が出ています。水害リスク情報図によれば、横瀬川・定峰川の周囲に河岸侵食、横瀬川・定峰川の合流地点、栃定グラウンドなどでも浸水の恐れがあります。また、峰沢池(下)(ため池)が決壊した場合、浸水区域が家屋などに及ぶことが想定されています。
- 市民アンケートでは、地域における災害リスクについて、「建物倒壊の危険性」「避難できない危険性」「浸水の危険性」「土砂災害の危険性」に対する回答が市全体と比較して多くなっています。

【地域における災害リスク（市民アンケート調査）】



※赤枠表示は市全体の「あると思う」「ややあると思う」と回答した比率の合計

(3) 地域の将来像

地域の現状と将来動向、市民の意向とまちづくりの課題を踏まえ、高篠地域の将来像を設定します。

○自然と調和した利便性の高い暮らしの場

進行する低密度な市街地の拡散を防止するため、適切な宅地化の誘導によるまとまりのある居住エリアの形成と、既存の行政サービス機能や学校教育施設などの集積の維持に加え、商業機能や医療機能などへのアクセス性を高めます。

また、生活道路や公園・広場などの生活基盤施設の整備などにより、周辺の自然環境と調和した居住環境と、利便性の高い暮らしの場を形成します。

○多様な地域の資源を活かした交流の拠点

秩父札所巡りの出発地、高篠鉦泉郷として古くからの歴史を有する温泉宿泊施設や、バイクツーリングやサイクリングのルートとして親しまれている定峰峠などの多様な地域資源を活用し、観光ニーズの多様化に対応できる交流の拠点を形成します。

(4) 地域まちづくりの基本方針

「地域の将来像」を踏まえ、高篠地域におけるまちづくりの基本方針を設定します。

【地域まちづくりの基本方針図】



① 不足する機能の改善策

地域に不足するもののうち、特に対策が必要な機能については、次の方針のもとで改善に取り組みます。

対象機能・施設	改善の方針
商業施設 病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地や国道140号沿道、横瀬町の商業・医療施設へのアクセス改善 ・ 移動販売に対する支援
高校・大学等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道の利便性の向上 ・ 鉄道駅へのアクセス改善

②豊かさを実現する土地利用

『豊かさ』を実現するコンパクトでにぎやかな活力のあるまちづくりに向け、次の方針のもとで土地利用を誘導します。

- ・ 空き地を活用した土地利用の集約化や自然的土地利用への回帰
- ・ 地域コミュニティの維持に向けた集落環境の形成
- ・ 自然環境や歴史文化資源と調和した観光産業の推進
- ・ 低密度な市街地の拡散の防止と適切な宅地化の誘導
- ・ 地域の8割を占める森林の保全と適切な維持管理

(5) 対流まちづくりの基本方針

人口減少が予測される中、大都市との交流拡大によって需要を取り込み、まちとしての機能を維持するため、観光振興によるまちづくりに取り組みます。

①秩父札所巡りの出発地としての歴史

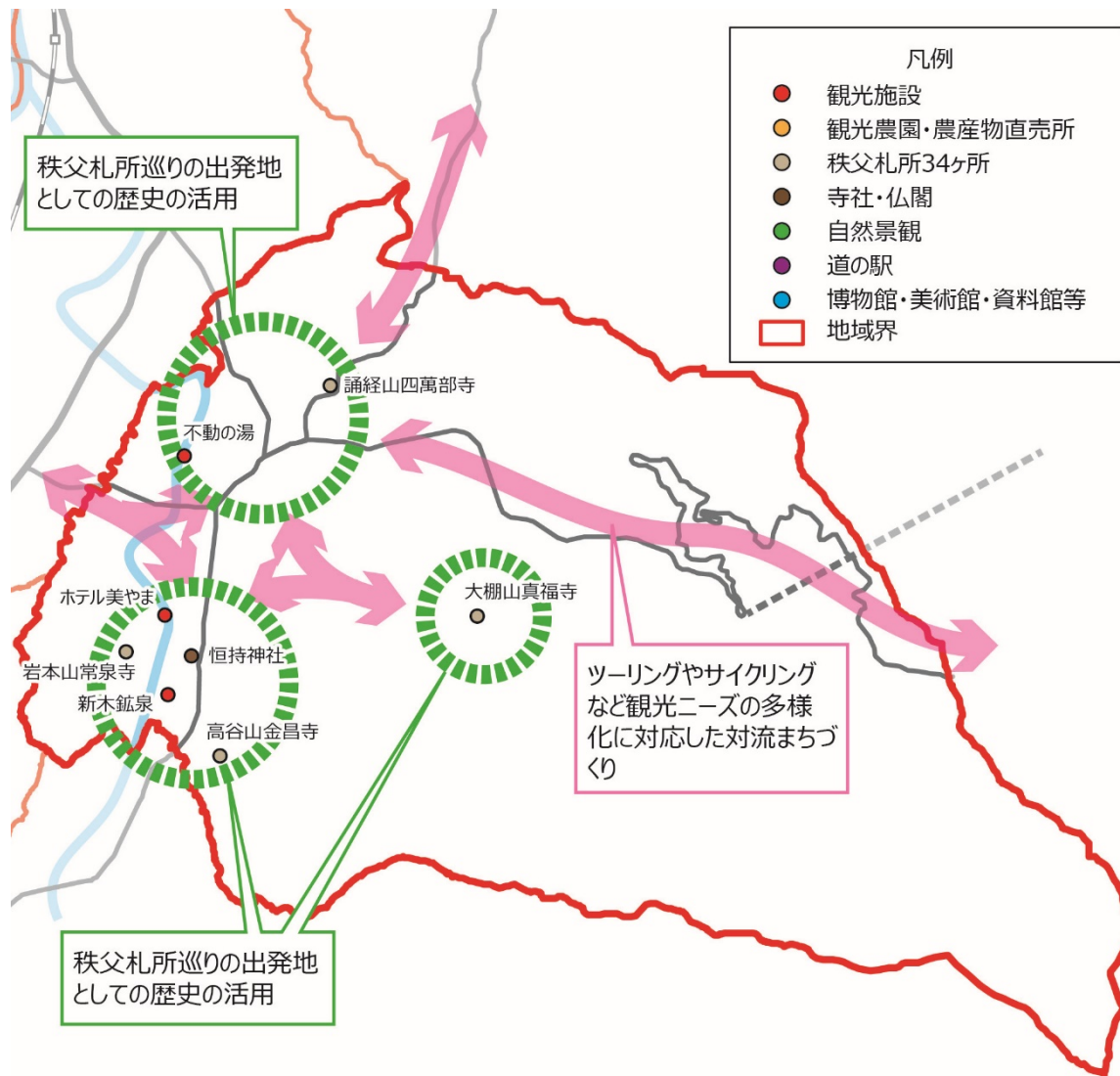
本地域は、秩父札所の1番から4番（四萬部寺、真福寺、常泉寺、金昌寺）までが分布し、秩父札所巡りの出発地としての歴史を有するほか、高篠鉦泉郷として古くからの歴史を有する温泉宿泊施設が立地しています。

こうした由緒ある歴史文化的な資源を活かし、「観る」観光から、「体験する」観光へと、札所巡りの魅力を高めることで、都市との交流(対流)を促進する交流まちづくりに取り組みます。

②ツーリングやサイクリングのメッカ

定峰峠に至る(主)熊谷小川秩父線は、バイクツーリングやサイクリングのルートとして親しまれ、その沿道には来訪者のレクリエーション活動をより充実させる特色のある飲食店の立地がみられます。沿道の自然・風景と「トキ」を楽しむことのできる沿道の景観づくりなど、観光ニーズの多様化に対応した交流(対流)まちづくりに取り組みます。

【対流まちづくりの基本方針図】



(6) 防災まちづくりの基本方針

市民の安全を守りつつ、同時に、コンパクトでにぎやかな活力のあるまちづくりを実現するため、防災の視点からのまちづくりに取り組みます。

①地域における避難所・避難路の整備

各地区においては、定住人口や交流人口の規模に照らし、収容可能な避難施設を適切に配置します。

山田地区においては、避難所に指定されている高篠小学校の周囲が土砂災害特別警戒区域に指定されていることから、擁壁等の防災施設の適切な維持管理に重点的に取り組みます。

②山間地の土砂災害警戒区域に対する対応

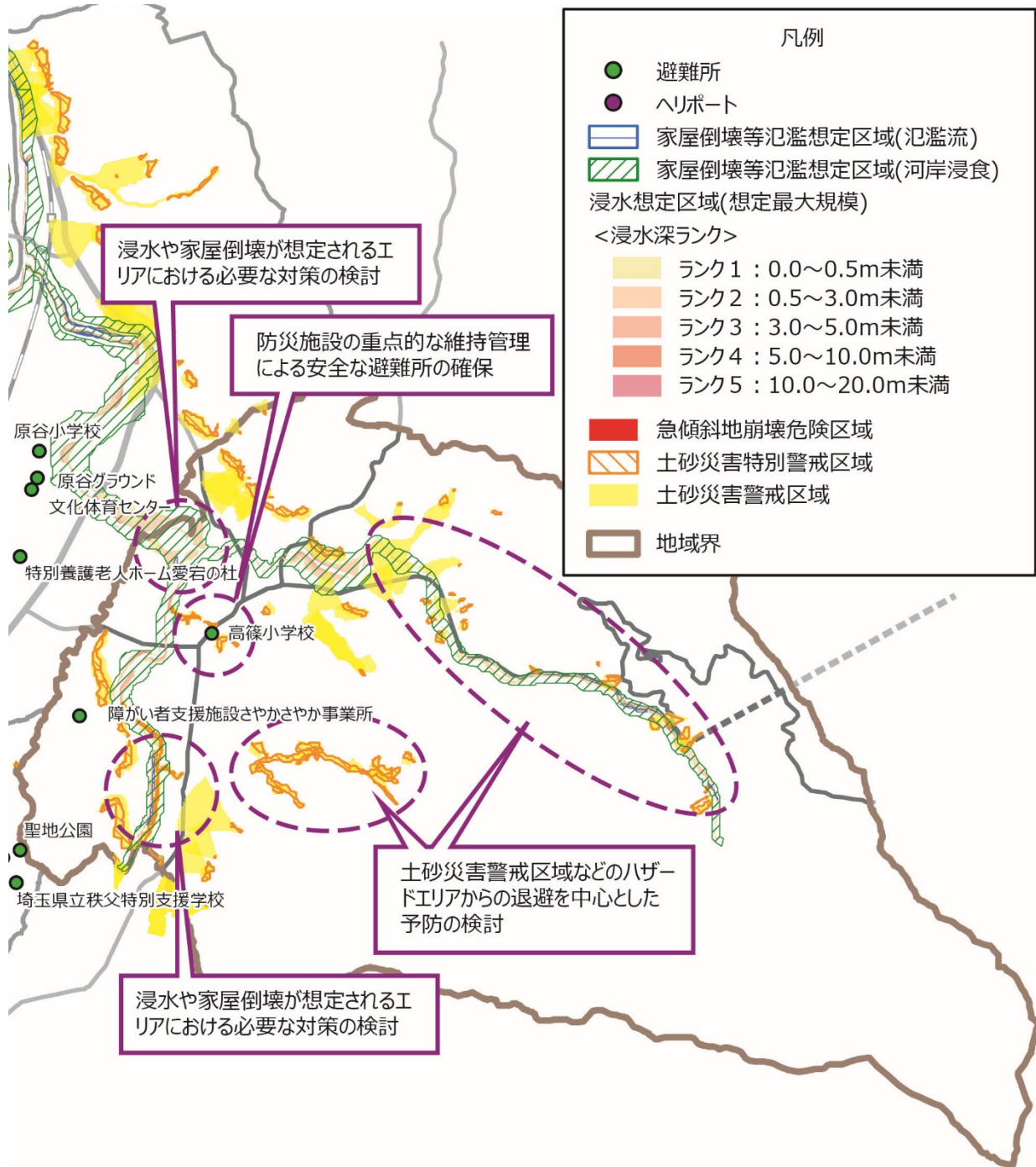
山間地の土砂災害警戒区域などにおいては、避難場所の整備や新たな建築物の立地の抑制、将来的な区域外への居住誘導など、災害予防と減災に向けた取り組みを検討します。

③横瀬川・定峰川の水害リスクに対する対応

浸水想定区域については、住民に対しリスク情報の周知を徹底し、浸水想定区域内の事業所・福祉施設に対して避難確保計画を作成するように働きかけます。

また、家屋倒壊等氾濫想定区域においては、リスク情報の周知を通じた、新たな建築物の立地の抑制、将来的な区域外への居住誘導など、災害予防と減災に向けた取り組みを検討します。

【防災まちづくりの基本方針図】



(7) 将来像実現に向けた取組方針

「地域の将来像」及び「地域まちづくり」「対流まちづくり」「防災まちづくり」それぞれの基本方針を踏まえ、将来都市像を実現するための「取組方針」及び「主な取組」を、4つの基本目標を軸に示します。

1) 基本目標1の実現に向けた取組方針

(「みんなが「総活躍」し、豊かさを感じられる日本一しあわせなまち」に向けて)

①安心・安全でコンパクトな暮らしやすい拠点の形成

<高篠出張所周辺>

- 高篠地域の生活圏を支えるため、出張所の行政サービス機能の維持を図ります。
- 地域内の身近な医療施設、中心市街地や他の地域、さらには横瀬町に立地する商業施設への公共交通によるアクセスの改善により、日常生活の安心と利便性を確保します。

②安心・安全でコンパクトな暮らしやすい拠点の形成

<高篠出張所周辺及び高篠出張所以南の(主)熊谷小川秩父線沿道の集落地>

- 地域コミュニティを維持していくため、居住機能はできる限り地区拠点周辺に誘導し、低密度市街地の拡散を防止します。
- 定住・移住の促進に向けて、生活道路や公園などの整備による居住環境の維持・向上を図るとともに、空き家・空き地の有効活用などにより、地区拠点を中心とした居住の誘導に取り組みます。

2) 基本目標2の実現に向けた取組方針

(「さまざまな移動・物流手段に支えられた、ヒト・モノ・カネ+情報が交流する活力あるまち」に向けて)

①ヒト・モノ・カネ+情報が対流する連携軸の整備

<(主)熊谷小川秩父線及び(主)長瀬玉淀自然公園線>

- 地域内の移動を支える主要な道路として、必要な改良と適切な維持管理を、関係機関に働きかけます。

<(仮称)定峰トンネル>

- 小川町など比企郡方面の連絡性を高めるため、(主)熊谷小川秩父線の「(仮称)定峰トンネル」の整備に向けて関係機関と調整します。

②ヒト・モノの対流を支える公共交通の確保

<路線バス：定峰線>

- 路線バス（定峰線）については、利用促進に向けた啓発活動や路線沿線における観光機能の強化による利用者の拡大に取り組むことで、利便の確保を図ります。

<利便性を高める公共交通システム>

- 山間部や集落内の日常生活の利便性を高めるための、公共交通システムを検討します。

3) 基本目標3の実現に向けた取組方針

(「多くの人々が訪れ、美しい自然環境と文化を堪能できるまち」に向けて)

①歴史文化資源などを活かした交流機能の充実

<秩父札所巡り>

- 各札所周辺や巡礼コース沿道においては、地域住民の意向を踏まえつつ、景観形成重点地区を指定するなど、地域の重要な歴史文化資源を活かした良好な景観形成を検討します。

<高篠鉦泉郷>

- 札所巡りの出発地としての歴史性を活かし、風情の感じられる景観形成などによって、高篠鉦泉郷の魅力向上に取り組めます。

<定峰峠に至る(主)熊谷小川秩父線沿道>

- バイクツーリングやサイクリングのルートとして魅力を高めるため、飲食店などレクリエーション活動を支援する機能の立地促進や沿道の景観づくりに取り組めます。

4) 基本目標4の実現に向けた取組方針

(「誰もが「安心・安全」に暮らせるまち」に向けて～)

①誰もが安心・安全に暮らせる環境の確保

<森林>

- 国土保全をはじめ森林の有する機能に応じた森林施業の促進による適切な維持管理に取り組みます。

<土砂災害警戒区域・浸水想定区域・家屋倒壊等氾濫想定区域等>

- 災害リスクの軽減を図るため、避難所や災害時要配慮者関連施設が含まれる高篠小学校など、整備効果が高い箇所から優先的に土砂災害防止施設等の整備を検討します。
- 浸水想定区域については、防災意識の向上とともに、氾濫情報の早期伝達と早期避難に向けた体制を構築します。
- 土砂災害警戒区域や家屋倒壊等氾濫想定区域などにおいては、災害リスクを周知し、事前の準備や早期の避難等と呼びかけるとともに、被害を軽減する施設の設置を関係機関と連携して進めます。また、新たな建築物の立地の抑制や将来的な区域外への居住誘導などの取り組みを検討します。

<ため池浸水想定区域>

- 峰沢池(ため池)については、緊急時の迅速な避難行動につなげる対策や、施設の適切な維持、補強に向けた対策を管理者と連携・協力しながら進めます。